

◇ねらい・教職員の教育活動について自己評価することにより、学校教育目標の達成状況を把握し、改善すべき課題を明確にし、学校教育活動の充実・向上を図る

平成20年度 自己評価

京都市立洛西中学校

4. できている 3. どちらかといえばできている 2. どちらかといえばできていない 1. できていない

		達成率	
1	学校教育目標	学校・地域の実情にふさわしい教育目標が設定されている	3.54
2		学校教育目標を念頭に置いた指導を行っている	2.85
3		今の時代状況にふさわしい「めざす生徒像」が設定されている。	3.38
4		「めざす生徒像」を念頭に置いた指導を行っている	3.04
5	教科指導と評価	年間指導計画及び月ごとの学習指導計画に即して授業を進めている	3.27
6		生徒の実態を把握し、個に応じた指導を大切にして授業をしている	3.15
7		授業の中で評価の観点や規準を生徒に明示できている	2.81
8		生徒や保護者に観点別の評価・評定などの説明を十分行っている	2.81
9		定期テストなどの結果から指導方法の工夫・改善をしている	3.19
10		公開授業の取組から指導方法の工夫・改善をしている	2.73
11		全国学力・学習状況調査の国数の問題例から指導方法の工夫・改善をしている。	2.21
12	総合的な学習の時間	各学年のテーマ・取組はこの時間のねらいに沿った内容になっている	2.87
13		この時間の学習活動を通して「問題解決能力」や「生き方を考える態度」が育っている	2.59
14		この時間を2分割して担当者の時間を設けたことで、教科での学習と関連づけることができる	2.77
15	選択教科	学校選択を導入したことで、生徒一人ひとりの学力向上につなげることができる	3.09
16		教科内個人選択を導入したことで、個に応じた指導が展開できる	2.90
17	道徳教育	一斉道徳の取組はこの時間の目標を達成できる回数・内容になっている	2.70
18		全校道徳の取組はこの時間の目標を達成できる回数・内容になっている	2.65
19	人権教育	生徒の人権が守られ、個々の生徒がかけがえのない存在として活躍できる状況が実現できている	2.96
20		人権学習の取組について、その時期・回数・内容は適切かつ妥当であり、生徒の学校生活に反映できている	2.82
21	総合育成支援	指導計画が作成され、それに基づいた指導を組織的に行っている	3.26
22	生徒指導	「めざす生徒像」の実現に努力し、生徒の姿にその成果が現れている	3.08
23		早期解決のため、組織的に対応する体制が確立できている	3.04
24		基本的な生活習慣の確立のための指導が計画的・組織的にできている	3.00
25		教育相談体制が確立され、生徒の相談に対応できている	3.20
26	生徒会	生徒が主体となり、生き生きとして生徒会活動を行っている	3.13
27	学年体制	学年運営が円滑になされ、協力しあえる雰囲気がある	3.08
28	研修	校内研修について、その時期・回数・内容は適切かつ妥当であり、教職員の資質向上につながっている	2.71
29		校外の研究会や研修会に積極的に参加し、指導力と実践力の向上に努めている	2.92
30	校務分掌	各分掌の役割を理解し、その遂行に向けて意欲的に取り組んでいる	3.29
31	学力向上 アクションプラン	週31コマの授業時数の実施は生徒の学力向上に効果が見られる	3.13
32		土曜スクールは生徒の学力向上に効果が見られる	2.91
33		学力向上のために、家庭学習を充実させる宿題を適切に課すことができた	3.04
34		中高連携による出前授業は生徒の学習意欲の向上や進路展望に役立っている	2.87
35		小中連携による様々な取組は中学校へのスムーズな入学や学習への意欲付けに役立っている	3.17
36		地域の方に協力していただいている放課後学習は生徒の学力向上に効果があると思う	2.88
37	地域連携	保護者・地域との連携を密接にとり、学校の取組に理解をいただいている	3.13
		平均達成率	2.98

